

クラウドファンディングに 挑戦します！！

山口県下関市

川棚温泉
旅館再生



Eat local,
play local.

地域が循環する

宿泊拠点をつくりたい！！

10月22日～11月30日まで
目標支援金額
150万円！

かつて川棚温泉にあった旅館（昔は関谷旅館）を再生します！

ここを新たに宿として開業し

豊浦町のローカルな魅力とお客様を繋ぎ、

温泉街に新たな人の流れを創り出す「地域が循環する拠点」

として機能させていけるようにします。

人・経済・自然・文化——それぞれの循環を

もう一度結び直す拠点として、

この宿から、豊浦の新しい“めぐり”を築いていきます。

ご支援の方法



こちらのQRコードから
ご支援のHPへ！

または



湯町ノ茶屋または
rinne ETICAL MARKET に
直接お渡しでも可能です。

ローカルコネクトトヨウラ

一般社団法人 Local Connect TOYOURA

私たちは、本州最西端・山口県下関市の豊浦町を拠点に、「地域の自然資本を活かし、地域が循環するプロジェクト」を企画・実行するソーシャルプロジェクトチームです。

この町に魅せられ移住してきたメンバーが中心となり活動しています。

2023年に任意団体として活動をスタートし、豊浦町の川棚温泉を軸に、湯町の朝市、湯町ノ茶屋や、ビアガーデン、子どもの自然体験活動など、様々なプロジェクトを展開してきました。



豊浦町の魅力

豊浦町は、下関市の人気観光地（角島大橋、唐戸市場）の間に位置し、瓦そば発祥の地として知られる川棚温泉を擁しています。また、三方をなだらかな低山に囲まれ、美しい里山、白砂で青く透き通った海、そして目の前に無人島と、小さいながらとても素敵な地形、景観のまちでもあります。

そのため、低山でのハイキングやトレイルラン、青い海でのサップやシュノーケル、釣りといった多様なアウトドアを、一つのエリアで存分に楽しめます。また、子どもたちが自然の中で学び遊べる里山が残り、地域の自然環境や生態系に配慮した農業に取り組む生産者も集いはじめており、多くの魅力と可能性に満ちています。

近年は、この魅力に惹かれて移住や週末滞在を選ぶ人が少しずつ増えてきました。

直面する課題

一方で、昔からこの土地で営まれていた暮らしの循環が少しずつ弱まってきています。

他の地域と同様に、農地では耕作放棄地が増え、山は手が入らず荒れはじめています。地域の産業を支える担い手は減少し、新たに挑戦する人も少なく、体験型の事業者も限られています。その結果、地域経済が弱まり、地域全体の魅力も少しずつ薄れつつあります。

観光面でも、かつて賑わっていた温泉街には訪れる人が減り、仮に立ち寄っても短時間で立ち去る「通過型」の観光が中心になってしまっています。自然、人、経済——このまちを支えてきたあらゆる循環の輪が、いま細くなりつつあります。この背景には、いくつかの要因があり、まず「地域を自分たちで自治する」という意識や仕組みが薄れ、住民同士が語り合い、協働する場が減ってしまったこと。そしてもう一つは、地域経済を支える観光の停滞です。訪れる人が減り、滞在時間も短いため、地域の中でお金が循環しづらくなっています。

その結果、新しいお店が参入しづらくなり、担い手不足も重なって、これまで長く続いてきたお店が静かに店を閉じる——そんな状況も生まれています。

この地域に必要なこと、私たちの挑戦

だからこそ、いま必要なのはこの地域に新しい“流れ”を生み出し、地域と関わり、未来を共につくる「仲間」を増やすための土壌づくりだと考えています。

地域を訪れる人が、ゆっくりと長く滞在し、地域の魅力を身体で感じる。その体験が関係人口を生み、移住や二拠点目の選択肢につながる。外から来た人の新しい視点が、地元の人に地域の価値を再発見させ、誇りや愛着を呼び戻すこと。地域の人と外の人がつながり、挑戦しやすい環境（スキマ）をつくること。単発のイベントや消費型の観光ではなく、“交流”を仕掛けること。

その糸口として、私たちは「地域が循環する宿」をつくることを決めました。

宿は、旅人が地域を感じる“入り口”であり、地元の人が外の風に触れて自分の地域を見直す“鏡”でもあります。人・経済・自然・文化——それぞれの循環をもう一度結び直す拠点として、この宿から、豊浦の新しい“めぐり”を築いていきます。

応援コメント

文化人類学者、環境＝文化アクティビスト 辻 信一



下関はぼくが今注目している場所の一つだ。中でも川棚は日本の原風景を残したよいところで、何か面白いことが起こりそうな直感があった。それが今、ついに若者たちによる「旅館再生プロジェクト」として、姿を現した。彼らは、どうやら、本気で、ここから懐かしい未来を手繰り寄せようとしている。これは深まりゆく危機の只中であって世界各地で遅く成長しているローカリゼーション・ムーブメントの一つのモデルになりうるプロジェクトなのではないか。希望を紡ぎ始めた彼らをぜひ応援していただきたい。

ムクロジ木器 代表 辻 翔平



同じ下関市豊浦町で木工所をしている辻と申します。

旅にも色んな旅があると思いますが、私の好きな旅はその地域に住む人たちの食文化や地域性、

どんなお土産ものを買うかなどいかにローカルのカルチャーに触れられる様な旅です。

旅行者だけでなく、私たちローカルとの繋がりを持てるような宿を彼らは作ってくれと確信しています。